

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 3 回 助成期間：平成 18 年11月1日～平成 19 年10月31日

テーマ：自然とのふれあいを通して資源を大切に育てる

氏名：堤 淳子 所属：平塚市立さくら幼稚園

1. 課題の主旨

幼稚園においても自然や身近な環境に十分に触れ合う体験ができることは、とても重要な意味を持つ。幼児が身近な環境に親しみ、十分にかかわることによって得た感動を教師や友達に伝え合い共感しあうことが、豊かな心情や思考力の芽生えを養うばかりでなく、自分の身近な自然や資源を大事にしようとする心を育てる上で重要となる。

具体的には、園庭中央にある桜の大木4本が幼児の生活に無くてはならない存在となっている。春には、花見をしたり花びらを遊びに利用したりする。夏には木陰を作ってくれたり、秋には紅葉を見たり落ち葉で焼き芋をするなど幼児の生活に重要な環境となっているが、その桜の大木が弱ってきているため元気になるように幼児に出来ることを行ったり、生活の中で水や電気などの資源を大切に育てることを目的とした。

2. 準備

本研究は4つの柱について進めるため、4つの柱に沿って準備する。

1. 1年間の花や苗を植える計画を立て、世話をしたり収穫したものを食べたりする機会を多くする。
2. 桜の木を元気にするため樹木医さんに来てもらい桜の木の状態を説明してもらい、元気にするための肥料などを幼児にも作業に加わり行うよう樹木医さんに依頼する。
3. 幼児にとって無理なく出来る節水、節電などに取り組み、資源を大切に育てる意識をもたせるため、劇団による「ごみ学級」を見せてもらい依頼をする。
4. 園児が身近な環境にかかわりながら生活している姿をビデオ撮影してもらい、環境教育の普及活動の実践のひとつとする。

3. 指導方法

1. 植物に関心を持たせるように言葉かけをして、世話をしたり収穫を楽しんだり、みんなで食べたりする。
2. 桜の木の治療
 - ・ 樹木医さんの説明を聞いたり、元気になるための肥料等を一緒にやる。
 - ・ 根の部分を踏まないように桜の木の周りに線をかき根を踏まないようにする。
3. 普段の生活の中で砂場の道具を洗うのにタイヤに水をくんで洗う、歯磨きの時に水を出しっぱなしにしない。人がいないときには電気を消したりストーブを使用時には戸を閉める、ごみの分別など無理なく出来ることを徹底する。
4. 1日の園児の生活している姿や遊んでいる姿をビデオ撮影し、環境教育が行われている姿を確認したり親子で視聴し普及していくようにする。

4. 実践内容

1. 幼稚園に花や苗を植え、育てたり収穫する喜びを味わう。
 - ・ 花壇に球根を植えたり、イチゴ苗、夏野菜、ジャガイモ、さつまいもを植えたり世話をする。
 - ・ 実のなるもの(いちご、ぐみ、梅、ぶどう、キウイ、じゃがいも、さつまいも、夏みかん、プルーン、夏野菜)を収穫してみんなで食べる。
 - ・ 米作り(種もみをもらい各自バケツで田植え、稲刈り、収穫)して食べる。
2. 桜の木の治療
 - ・ 桜の木を利用して遊ぶことを体験し、生活の中で興味や関心をもたせる。
 - ・ 樹木医さんに桜の木の状態を説明してもらい、治療の作業を園児も一緒に行う。
 - ・ 治療のため桜の木の周りに線をひき、根を踏まないように気をつける。
3. 資源を大切にす。
 - ・ 園児にとって無理なく出来る節水や節電などに取り組み、資源を大切にする意識をもたせる。
 - ・ ごみの分別をして捨てる習慣を身につける。
 - ・ 劇団による「ごみ学級」を見たり参加して、資源を大切にする意識をさらに高める。
4. 環境教育ビデオ撮影
 - ・ 園児の身近な環境にかかわりながら生活したり遊んでいる姿をビデオ撮影してもらう。
 - ・ ビデオを見ながら自分たちの生活を確認したり振り返る。
 - ・ 親にも見てもらい環境教育の普及活動のひとつとして、親の意識も高める。

5. 成果・効果

1. いちごや梅ジャム作りをしたり、さつまいも、ジャガイモを収穫して食べる。夏野菜はプチトマト・きゅうり・なすなどをみんなで食べることにより苦手だった食べ物を食べられるようになったり、食材に触れたりする機会も増えて食育の効果も得られた。また、米作りにも初めて取り組み、親子で田植え、稲刈りをする事で園児だけでなく親も関心を持つことができた。
2. 桜の木の周りに線がかかっていることが生活の中に浸透して、桜の木を大事にする気持ちやいたわる様子が見られた。
3. 劇団による「ごみ学級」を見て、買い物に行くときにはマイバッグを持っていくように親に話をしたり、節水・節電等の意識も高まっている。ごみの分別もみんなでやってみたり、毎日の片付けのときや機会のあるたびに言葉かけをしていくことで資源を大切にする気持ちが育っている。
4. 環境教育ビデオを親子で見たり、入園説明会でも視聴し、どのような生活をしているのか理解してもらう上でも効果があった。自分たちの姿を振り返り、確認することにも役立った。

6. 所 感

さくらの大木が弱ってきていたので、何とか元気になってほしいという思いが強かったため、この環境教育助成に申請をした。樹木医さんに来てもらい園児達にわかりやすく説明をしてもらい、治療のため樹木の周りに穴を掘り、肥料などを入れる作業も園児全員が参加し行うことが出来たことは、とてもよい体験だった。教師も説明を聞き桜の木を元気にするためには、根を踏まないようにすることが大事であると知り、普段の生活でも樹木の周りに線をかき中に入らないように気をつけることが習慣化してきた。こういう機会がもてたことにとても感謝しているし園児の桜の木に対しての思いやる気持ちも育ってきているように思う。

自然とのふれあいは、教師が意識して取り組んでいかなければ、園児達もかかわりが少なくなる。これからも恵まれている園庭の自然を大事にしていきたい。

また、資源を大事にすることも幼稚園の生活を見直し節水・節電・ごみの分別など園児にも無理なく出来ることから取り組み効果が現れている。さらに親の意識にも資源を大切にしようという気持ちが強くなり、今まで模擬店をやるときには、使い捨て容器を使用していたが容器を持参するなどの変化も見られた。これからも資源を大事にすることを折に触れ教師がモデルになったり指導していきたい。

7. 今後の課題や発展性について

1. 園庭の花や苗を植える年間計画を立て、より栽培が上手くいくように土を耕したり土壌を良くし、園児とともに肥料のやり方・育て方の知識を増やしていくようにする。
2. 桜の木を大切にすることを引き続き園児に話をしたり、桜の木にかかわりながら伝えていく。
3. 節水・節電・ごみの分別などを通して資源を大切にすることを育てたり、絵本や教材を利用し園児の生活の中に浸透していくようにしていきたい。
4. ビデオ撮影したものを親子で視聴したことで、園児だけでなく親の意識も変わってきた。PTA行事で使い捨て容器から持参した容器になったり、リサイクルの会など有効利用する姿が見られたので、今後も親子で環境や資源を大切にすることを働きかけていきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

特になし

【教材制作方法】

- 実施内容が教材開発の場合、ここから1～2ページ使って、教材の制作方法を記載願います
- 実施内容が教材開発でない場合、このページ以降を削除願います

